



診療科紹介 第一循環器内科

循環器内科部長 片岡 哲郎

鹿児島医療センター第一循環器内科では、虚血性心疾患、心不全、弁膜症、不整脈、高血圧、動脈硬化性疾患ならびに生活習慣病に関連する循環器疾患全般について、診断・治療・長期管理を行っています。急性期から慢性期、さらには再発予防や地域での継続診療まで一貫した循環器医療を提供し、患者さん一人ひとりの生活背景を踏まえた医療を心掛けています。

特に、急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患に対する冠動脈カテーテル治療(PCI)、大動脈弁狭窄症や僧帽弁疾患などに対する構造的な疾患(SHD: Structural Heart Disease)治療、特に経皮的冠動脈介入治療(TAVI)や経皮的僧帽弁クリップ術(M-TEER)などの弁膜症治療は当科の重点分野です。専門医・指導医が多数在籍し、専門的な知識と豊富な経験をもとに、最新のエビデンスと技術を取り入れた全国水準のカテーテル

治療を展開しています。高齢化に伴い増加する心不全や弁膜症患者に対しても、多職種と連携しながら包括的な診療を行っています。

また当院は、県内でも数少ない24時間365日、循環器内科医が常駐する医療機関として、第二循環器内科、不整脈治療科、心臓血管外科と協力し、急性冠症候群、急性心不全、重症不整脈、急性大動脈疾患など、循環器救急医療の中核を担っています。救急搬送患者や重症症例に対し迅速な診断・治療を行い、鹿児島県の循環器急性期医療を支える重要な役割を果たしています。

教育・人材育成も当科の大きな使命の一つです。鹿児島大学病院をはじめとする関連施設より多くの若手医師を受け入れ、日常診療や救急対応、カテーテル治療を通じて実践的な循環器教育を行っています。当科で研鑽を積んだ循環器医師は、現在県内各地域の基幹病院や中核医療機

関において活躍しており、地域循環器医療を支える重要な存在となっています。こうした人的交流は、鹿児島大学病院や地域医療機関との強固な連携基盤にもつながっています。

さらに、地域の開業医の先生方や医療機関から、日頃より多くの患者紹介や診療相談をいただいております。地域の先生方との信頼関係のもと、専門的検査・治療後はかかりつけ医へ円滑に診療を引き継ぐなど、病診連携・病病連携を重視した診療体制を構築しています。多くのご支援とご紹介に深く感謝するとともに、今後も地域の医療機関との協力関係をさらに強化し、鹿児島県全体の循環器診療の質向上に貢献してまいります。

第一循環器内科は、「高度専門医療」「循環器救急」「地域連携」「人材育成」を柱として、これからも地域に信頼される循環器診療を提供し続けます。

血液疾患に対する包括的診療と先進治療体制

1. 幅広い血液疾患への対応

当科は、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)、骨髄異形成症候群などの造血器悪性腫瘍を中心に、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血など幅広い血液疾患の診療を行っています。

2. 進歩する治療と造血幹細胞移植

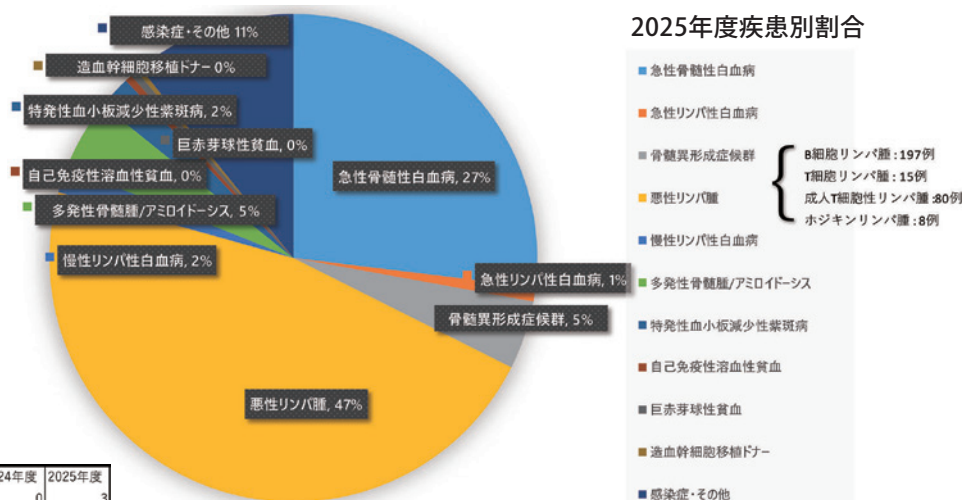
近年、分子標的薬をはじめとする新規薬剤の導入により治療は日々進歩しており、当科でも積極的にこれらの薬剤を取り入れています。多発性骨髄腫や悪性リンパ腫では、自家末梢血幹細胞移植による予後改善が期待できます。急性白血病においても複数の新規薬剤の登場により治療選択肢が広がっています。治療抵抗性の急性白血病やATLの患者には、年齢や全身状態を考慮し、同種造血幹細胞移植を検討します。同種移植は、患者以外の血縁者や登録ドナーから提供された幹細胞を用いる治療法です。当科は日本造血・免疫細胞療法学会の基準に基づき、Low Volume Center (LVC)として認定されています。移植が必要な場合は、他施設での実施も含め、患者さんやご家族と医療チームで十分に話し合い、適切な施設を選定します。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
自家末梢血幹細胞移植	3	3	2	2	0	3
血縁者間末梢血幹細胞移植	0	1	2	0	0	0
血縁者間骨髄移植	0	0	0	0	0	0
非血縁者間骨髄移植	2	1	4	4	0	2
さい帯血移植	0	0	0	0	0	0

3. 一貫した診療体制と地域連携

当科では、無菌室や専門スタッフを備えた体制で、移植前から移植後まで一貫した治療とフォローアップを提供しています。特に鹿児島県内で頻度の高いATLについては、診断から治療、移植まで包括的な診療体制を整えています。また、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、入院から退院後まで切れ目のない支援体制を構築しています。地域の医療機関との連携も重視しており、ご紹介いただいた患者さんには迅速かつ丁寧に対応しています。

血液内科一同



2025年度の当科の入院患者数と疾患別割合

疾患名	件数
急性骨髄性白血病	205
急性リンパ性白血病	12
骨髄異形成症候群	9
悪性リンパ腫	348
慢性リンパ性白血病	4
多発性骨髄腫/アミロイドーシス	37
特発性血小板減少性紫斑病	12
自己免疫性溶血性貧血	1
巨赤芽球性貧血	2
造血幹細胞移植ドナー	2
感染症・その他	62
合計	694

TOPIC 1

2025年度 院内研究発表会を振り返って

臨床研究部長 松下 茂人

～日々の実践を「伝える」ことで広がるつながり～



(写真1)

2025年度の院内研究発表会が、2026年2月27日に開催され、医師、看護師をはじめ、さまざまな職種から16題の演題発表が行われました。昨年度から導入したライトニングトーク形式も2年目となり、発表者も聴講者も少し慣れた雰囲気の中で、活発な議論が交わされました(写真1)。

発表会に先立ち、今回はポスター掲示を行い、会場に来る前から研究内容に触れられるよう工夫しました(写真2)。実際に「事前に見ていたので内容が入りやすかった」という声もあり、限られた時間の中でも理解を深める助けになっていたように感じます。

当日は3分間という短い発表時間でしたが、その分、発表者それぞれの工夫や熱意が伝わる内容となりました。臨床の中で感じた疑問を形にした研究、日々の業務改善につながる取り組み、多職種連携に関する報告など、どの演題にも現場ならではの視点があり、「普段の仕事の中にも研究の種がある」ということを改めて感じる機会になりました。

特に印象的だったのは、今年は初期臨床研修医3名による発表があったことです。限られた研修期間の中で、自ら課題を見つけ、研究としてまとめ発表する姿からは、若い世代の意欲や成長を強く感じました。こうした若手の挑戦が、今後の院内の研究活動の広がりにつな

脳卒中センターとしての役割

脳卒中センターとしての役割

当科は、脳・血管内科と緊密に協力し、「脳卒中センター」として一体的な診療を行っています。当院はICU(集中治療室)16床およびSCU(脳卒中ケアユニット)9床を備え、脳血管障害の超急性期から継ぎ目なく専門的な集中治療を提供できる環境を整えています。

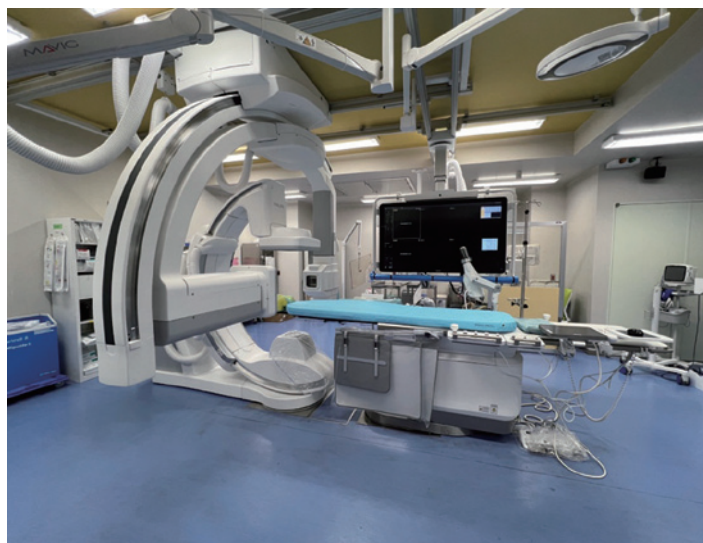
特に、急性期脳梗塞に対する脳血栓回収術の件数は年々増加傾向にあり、昨年には累計300件を達成いたしました。これだけの症例数を重ねられたのも、地域の先生方や救急隊が超急性期のサインを見逃さず、迅速にご紹介くださった賜物と深く感謝しております。また、くも膜下出血・脳出血などの出血性脳血管疾患に対しては、365日いつでも緊急手術に対応できるオンコール体制を維持しています。

患者ニーズに対する低侵襲治療への取り組み

近年、多くの患者さんが低侵襲治療を希望されます。当科ではこうしたニーズに応えるべく、「切らないで治す脳血管内治療」を積極的に展開しています。2024年には最新のアンギ

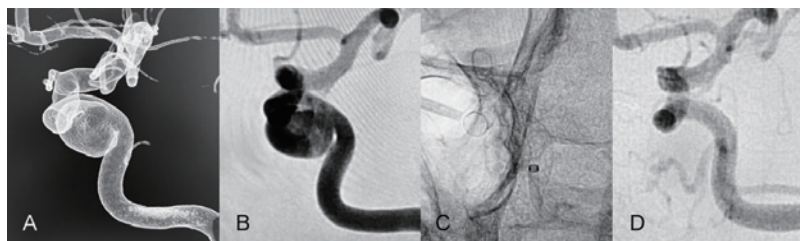
オ装置(Philips Azurion7 Biplane)を導入し、高精細な画像のもとで、より安全かつ高精度なインターベンションが可能となっています。

具体的な治療としては、大型・巨大型の未破裂脳動脈瘤に対するフローダイバーター治療を導入し、安定した実績を挙げています。また、鹿児島県内ではまだ実施施設が少ない「橈骨動脈アプローチ(手首からの穿刺)」による脳血管内治療も積極的に取り入れています。従来の大腿動脈アプローチと比べ、術後の穿刺部トラブルが少なく、長時間の安静固定が不要なため、患者さんの身体的・精神的負担の軽減と早期離床を実現しています。今後は、脳動脈瘤治療において、先進的なWEB(Woven EndoBridge)デバイスを用いた治療も積極的に取り入れていく予定です。



最後に

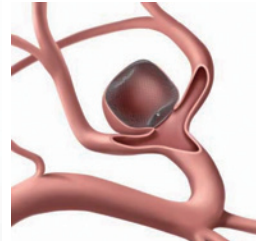
私たちは「確実な急性期治療と、速やかな地域への逆紹介」を基本方針としております。急性期を脱した患者さんは、先生方の日常診療へスムーズにお戻りできるよう努めてまいります。画像上の偶発所見や、血管内治療の適応に迷う症例などがございましたら、どうぞお気軽に当科へご紹介・ご相談ください。



A:内頸動脈未破裂脳動脈瘤 B:術前 C:フローダイバーター留置後 D:術後6ヵ月後



Philips Azurion7 Biplane



WEB (Woven EndoBridge)

がっていくことを期待しています。

また、発表後のネットワーキングセッションでは、職種や部署を越えて意見交換を行う姿が多く見られました(写真3)。発表内容について直接質問したり、日頃の業務の悩みや工夫を共有したりする場面もあり、研究発表を“聞いて終わり”にしない、新たなつながりの広がる時間になっていたように感じます。研究そのものだけでなく、こうした交流の積み重ねも、この発表会の大切な役割の一つなのかもしれません。

さらに、アンケートでは、「他部署の取り組みを知ることができてよかった」「短時間で多くの演題を聞けてよかった」といった前向きな意見が多く寄せられました。一方で、Web配信時の音声環境や、進行方法などについて改善

を望む声もありました。限られた時間の中でも、より円滑に議論や情報共有ができる発表会となるよう、今後も工夫を重ねていきたいと考えています。

研究というと、どこか特別なものを感じる方もいるかもしれません。しかし実際には、日々の業務の中で「なぜだろう」「もっと良くできないか」と考えることが、その第一歩なのだと思います。今回の発表会が、研究経験の有無に関わらず、何か新しい挑戦を始めるきっかけになっていれば嬉しく思います。

最後に、発表者の皆様、運営にご協力いただいた関係者の皆様、そしてご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。2026年度も、多くの職員が気軽に参加し、学びや新たなつながりが生まれる発表会にしていければと思います。



(写真2)



(写真3)



新任医師の ご紹介

放射線科 阿久根 健太郎

●今年4月より放射線科に配属となりました阿久根健太郎と申します。以前2023年度に一年間いたこともあり、二度目の配属となります。二年ぶりの医療センターには当時お世話になった方々がいらっしゃる一方で、はじめましての先生方やスタッフの皆様も多く、現在も病院に慣れていく日々を過ごしています。読影室での業務が中心となり皆様と顔を合わせる機会は多くはないと存じますが、今後とも何卒よろしくようお願い申し上げます。



放射線科 上村 尚大

●2026年4月より放射線科に赴任いたしました上村尚大と申します。画像診断を通して診療の一助になれるよう、丁寧な対応を心がけてまいります。まだ不慣れな点もございますが、少しでも早く職場に馴染み、皆さまのお役に立てるように努めてまいります。何卒よろしく願ひいたします。



第二循環器内科 尾辻 良彦

●この度第二循環器内科に入局することとなりました、尾辻 良彦と申します。2023年から2024年まで鹿児島医療センターで研修医として様々なことを勉強させていただきまし。第二循環器内科に入ろうと思ったのも、その当時の先生方の優しく、時には厳しく実りある教育がきっかけです。まだまだ経験も知識も足りておりませんが、体力と根性でカバーしてまいりますので、間違っていること、足りないことがあればご指導ご鞭撻いただけると幸いです。☑これからよろしく願ひいたします。



研修医の ご紹介

臨床研修医 藤森 淳人

●今年度4月から鹿児島医療センターで初期研修させていただきます藤森淳人と申します。出身は京都府で大学卒業までずっと京都で暮らしておりました。縁もゆかりもない鹿児島ですが、学生の時に「この町に住みたい」と思った自分の直感を信じた結果、本当に鹿児島で医師としてのスタートを切ることになりました。働き始めて2か月ほどになりますが、新たな環境で新たな仲間と充実した日々を過ごしております。仕事に関してはまだまだ未熟な点が多く、周りのスタッフに助けられてばかりの自分に悔しさを感じる日々です。その一方で、少しずつですができることやわかることが増えていくことに喜びも感じております。患者様から信頼していただける医師になるために、この恵まれた環境でしっかり研鑽を積んでいきたいと思ひます。また、プライベートでは、グルメや温泉や離島など、鹿児島ならではの魅力も楽しんできたいと思ひます。医学の他に焼酎の勉強もしていきたいと思ひます。どうぞよろしく願ひいたします。



臨床研修医 瀬戸山 直史

●こんにちは。本年度より初期臨床研修医として鹿児島医療センターに入職いたしました、鹿児島大学出身の瀬戸山直史と申します。医師としてのキャリアの1歩目をこの病院で踏み出せたことを大変うれしく思っております。さて、いざ臨床の場に出てみますと、毎日が新鮮であると同時に、自身の知識や技術の未熟さを痛感する日々でもあります。しかしながら、熱心にご指導くださる先生方や、優しくサポートして下さるスタッフの皆様、そして様々な場面で協力くださる患者様のおかげで、少しずつではありますが日々の業務の流れを掴み、医療者としての自覚も深まって参りました。これから2年間の研修生活を通して、広い視野を持って、より多くの知識と確かな技術を身につけ、チームの戦力になれるよう努力して参ります。至らぬ点が多くご迷惑をおかけする場面も多いとは思ひますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願ひいたします。



臨床研修医 西 俊英

●今年度より鹿児島医療センターで初期研修をさせていただきます西 俊英と申します。鹿児島大学出身で、お世話になった鹿児島で医師として働くことを大変嬉しく思ひます。4月から第2循環器内科で研修を開始し、病棟業務や救急外来対応など、日々多くのことを経験させていただいております。実際の臨床現場では、これまで教科書で学んできたことは異なる新たな学びがあり、患者様一人一人に向き合うことの大切さを実感しております。上級医の先生方をはじめ、コメディカルの方々も優しく丁寧に指導してくださり、少しずつ成長することができていると思ひます。まだまだご迷惑をおかけすることが多くあると思ひますが、一日でも早く医師として活躍できるように努力してまいりますので、ご指導のほどよろしく願ひいたします。



臨床研修医 木村 一徳

●この春から鹿児島医療センターで初期臨床研修をさせていただきます木村一徳と申します。4月から2か月間、第一循環器内科で研修を行っており、心エコーや心電図の読影、心臓カテーテル検査、急性期管理などを通して日々多くの学びを得ると同時に、チーム医療の大切さを強く感じております。実際の臨床現場では自分の知識や技術の不足を痛感する日々ですが、熱心にご指導くださる上級医の先生方や温かいスタッフの皆様を支えられ、少しずつですが成長を感じることができています。このような恵まれた環境で医師としての第一歩をふみだせて本当に良かったと実感しております。これからも日々の研修に熱心に取り組み、医学的知識や技術はもちろんのこと、患者さんに寄り添う姿勢を学び、心から信頼してもらえる医師になれるよう日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願ひいたします。



臨床研修医 尻屋 晴音

●この度、4月より鹿児島医療センターにて初期臨床研修させていただきます尻屋晴音と申します。生まれ育った鹿児島の医療にこの病院で関わることができ、大変嬉しく感じております。☑4月から2ヶ月間、脳血管内科で研修をさせていただきます。救急外来での患者さんへの対応、病棟業務など慣れないことも多く、自分の未熟さを感じる毎日ですが、先生方が優しく様々なことを教えて下さったり、また、スタッフの方々も我々研修医を手厚くサポートしてくださり、日々やりがいを感じながら楽しく過ごさせていただいております。まだまだ至らぬ点が多く、周りの方に助けられてばかりの毎日ですが、少しでも早く病気で困っている患者さんの力になれるよう、日々精進して参りたいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願ひいたします。



臨床研修医 上山 純平

●令和8年度より医療センター研修医として勤務しております。上山純平です。4月より第二循環器内科で2か月間研修をさせていただいております。日々の研修を通して、自分の未熟さを痛感すると同時に、先生方からの温かいご指導のもと、多くの学びや成長を感じながら毎日を過ごしております。循環器診療は迅速な判断やチームでの連携が求められる場面が多く、先生方や看護師、コメディカルの方々に支えていただきながら研修できていることに深く感謝しております。まだ至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一つひとつの経験を大切に、少しでも早く患者さんやスタッフの方々に信頼される医師になれるよう努力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



臨床研修医 松ヶ迫多己人

●お世話になっております。今年度より鹿児島医療センターで初期臨床研修をさせていただいております松ヶ迫多己人と申します。出身は宮崎県で鹿児島大学を卒業いたしました。医師として、また社会人としての新生活を迎え、毎日が新しい経験や学びの連続です。4月から2か月間、第一循環器内科で研修させていただきました。慣れない業務に戸惑うことも多々ありましたが、指導医の先生方の手厚いご指導のもと、ルート確保や心エコー検査、カテーテル操作など実践的な手技を数多く経験させていただきました。初めてのことでばかりで力不足を実感する毎日ですが、周囲の皆様に支えられ、日々の診療の中で少しずつできることが増えていくことに大きなやりがいを感じています。一日一日を大切にこれから研修に励み、医師として成長していけるように初心を忘れず精進してまいります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



臨床研修医 濱田 昂輝

●4月より鹿児島医療センターで初期臨床研修医として勤務させていただいております、濱田昂輝と申します。医師としての第一歩をこの病院で踏み出せることを大変ありがたく感じております。私は現在脳神経内科で研修をしており、カルテの記載や急患対応、様々な手技、画像読影など医師として基礎となる知識や技術などを日々学んでいます。指導医の先生方はとても優しくそして熱心に指導してくださり、毎日が学びの連続です。上級医や指導医の先生方、コメディカルの方々など多くの方々に支えられ、少しずつではありますが着実に成長することはできているのではないかと思います。このような恵まれた環境で2年間研修できることに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも初心を忘れず日々精進し患者さんに信頼される医師になれるよう努力を重ねてまいります。まだまだ未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



臨床研修医 大崎 千尋

●この度、2026年度初期研修医として入職いたしました大崎千尋と申します。私は社会人経験を経て医師の道を志し、この春、5年ぶりに新たな職種として社会人生活を再開いたしました。未知の領域への挑戦に当初は大きな緊張と不安を抱いておりましたが、実際に働き始めると新しい学びの連続で、非常に新鮮で充実した日々を過ごしております。慣れない業務に力不足を痛感し落ち込むこともございますが、熱心にご指導くださる指導医や上級医、先輩の研修医の先生方、温かく支えてくださる看護師をはじめとしたコメディカルの皆様、そして同期や家族の存在に励まされ、少しずつ研修に励んでおります。まだまだ出来ることは少ないですが、正確な知識と実践的な経験を着実に積み重ね、できることを一つずつ増やしながら、医師として大きく飛躍できるよう日々精進してまいります。2年間どうぞよろしくお願いいたします。



臨床研修医 三枝 萌果

●初めまして。4月から鹿児島医療センターで研修させていただいております、三枝萌果(みつえもえか)と申します。現在は第一循環器内科で研修をさせていただいております。研修では自分の未熟さや失敗に落ち込むことも多々ありますが、指導医の先生をはじめ、多くの先生方、コメディカルの方々、先輩方など皆さまに丁寧なご指導いただき、充実した毎日を送っております。日々沢山のサポートに感謝の気持ちでいっぱいです。また、研修を始めてから疾患への理解を深めることや手技の上達だけでなく、患者さんやそのご家族の方との関わり方、退院後の生活などこれまでよりも幅広い視点を持って考えることの大切さも実感しています。まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、実りある2年間になるよう初心を忘れず、精一杯頑張りますので、ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。



臨床研修医 松原 和司

●はじめまして。4月から鹿児島医療センターで初期研修をさせていただいております、松原和司(まつばらかずし)と申します。現在は麻酔科を中心に研修をさせていただいており、全身管理や周術期管理、気道管理などについて日々学んでいます。学生の頃は知識として学んでいたことも、実際の臨床では患者さんごとに状態や背景が異なり、教科書通りにはいかない難しさを日々感じています。自分の未熟さに悩み、苦しむことも多いですが、その分できることが少しずつ増えていくことにやりがいも感じています。また、手術室や病棟、救急外来などで多職種の皆様と関わる中で、チーム医療の大切さを強く実感しております。まだまだ未熟ではありますが、一つひとつの経験を大切にしながら、患者さんに真摯に向き合い、日々成長していけるよう努力してまいります。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



臨床研修医 平山 翔也

●はじめまして。4月より鹿児島医療センターで初期臨床研修をさせていただいております、平山翔也と申します。出身は長崎県で、産業医科大学を卒業いたしました。研修が始まり1か月ほど経過し、日々多くの学びと刺激を感じながら診療に携わっております。学生時代は救急医療や周産期医療に興味を持ち、現在は幅広い分野を経験しながら、患者さん一人ひとりに寄り添える医師になれるよう努力しております。また、地域医療や在宅医療にも関心があり、病院内だけでなく患者さんの生活背景を踏まえて考えることの重要性を実感しております。まだまだ未熟で至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、持ち前の明るさと行動力を活かし、一つひとつ真摯に学びながら成長していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



臨床研修医 藤田 真木子

●はじめまして。令和8年4月付で初期臨床研修医として鹿児島医療センターに配属になりました、藤田真木子です。大学は県外だったためこうして地元鹿児島で働けることに喜びを感じております。現在までに麻酔科と外科を回らせていただきました。術前術中の管理はもちろん、身体の状態が大きく変わった術後管理の大切さを強く実感しました。当たり前のことですが患者さん一人ひとりによって訴えは変わってきます。いかに患者さんの気持ちに寄り添えるか、何が患者さんのためになるか、どのような治療がより良いのか、座学では得られない様々なことを積極的に吸収していきたいと考えております。2年目研修医や上級医、看護師、コメディカルの方々とコミュニケーションを取り医療者として大切なことを学んでいきたいです。至らぬ点が多々あるかと存じますが、皆さんご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。……と真面目に書いてしまいましたが、このような性格なので時には肩の力を抜いて頑張るべきでないことが今後の目標です。



外来診療担当表2026年8月

診療科		曜 日	月	火	水	木	金
血液内科	初 診		大塚 真紀	原口 浩一	福徳 聡	大塚 真紀	大渡 五月
	再 診		大塚 真紀	大塚 真紀	大渡 五月	大塚 真紀	大渡 五月
	移植後フォローアップ外来※		福徳 聡	原口 浩一	福徳 聡	原口 浩一	
			血液内科医師及び看護師（完全予約制）				
糖尿病・内分泌内科			郡山 暢之	児島 奈弥 田平 健太	郡山 暢之	西尾 善彦 日高 明日奈	郡山 暢之 肥満症外来 児島 奈弥
糖尿病療養指導外来※			糖尿病看護認定看護師				
消化内科	消化管・胆膵		福森 光 田平 悠二	福森 光 宮内 涼	福森 光 田平 悠二	「処置日」	福森 光 宮内 涼
	肝臓		櫻井 一宏	森内 昭博	櫻井 一宏	森内 昭博	櫻井 一宏
腎 臓 内 科			古庄 正英 外山 裕貴 (CKD連携外来)	腹膜透析外来	「手術日」	古庄 正英 倉八 加奈子 (CKD連携外来)	外山 裕貴 (第4金曜以外) ※第4金曜日は休診
第一循環器内科			片岡 哲郎 福元 大地 有村 俊博	片岡 哲郎 高崎 州亜 市成 浩太郎 (隔週)	今村 春一 河合 正太郎 中島 均	寒川 寛哉 寺園 逸正	片岡 哲郎 高崎 州亜 向井 麟太郎
第二循環器内科 *弁膜症外来 火曜日			園田 幸一郎 中別府 麻里	東 健作 平塚 聖久 後藤 淳一	園田 正浩	石川 裕輔 伊集院 駿 田中 康博	東 健作 馬場 善政
不整脈治療科			塗木 徳人	塗木 徳人	蔡 榮鴻	二宮 雄一	塗木 徳人
脳・血管内科			松岡 秀樹 濱田 祐樹 池田 め衣	松岡 秀樹 浜田 恭輔 石丸 純梨 (1,3,5週) 吉留 萌 (2,4週)	松岡 秀樹 佐藤 健朗 池田 め衣	松岡 秀樹 濱田 祐樹 吉留 萌 (1,3,5週) 石丸 純梨 (2,4週)	松岡 秀樹 佐藤 健朗 池田 め衣
小 児 科 *心臓健診 月曜日～金曜日			田中 裕治 二宮 由美子 石川 香織	田中 裕治 二宮 由美子 石川 香織 (午前中)	田中 裕治 石川 香織 (午前中)	田中 裕治 二宮 由美子 石川 香織	田中 裕治 二宮 由美子 吉永 正夫
放射線科	放射線治療		西森 宏雄		西森 宏雄	西森 宏雄	西森 宏雄
	画像診断 CT・MRI・RI		井手上 淳一 阿久根 健太郎	井手上 淳一 上村 尚大	阿久根 健太郎	井手上 淳一 上村 尚大	井手上 淳一 阿久根 健太郎
心臓血管外科			向原 公介		峠 幸志		永富 脩二 寺園 和哉 (隔週で交代制)
外科・消化器外科				塗木 健介 嶋田 浩徳 佐竹 霧一		塗木 健介 嶋田 浩徳 佐竹 霧一	
脳神経外科 *水曜日は、手術日のため外来診療休診			久保 文克	久保 文克	「手術日」	増田 圭亮	手術日
婦人科 *完全予約制			神尾 真樹 徳留 明夫 税所 篤志	神尾 真樹 徳留 明夫 税所 篤志	「手術日」	神尾 真樹 徳留 明夫 税所 篤志	神尾 真樹 徳留 明夫 税所 篤志
耳鼻咽喉科 *完全紹介制 (初めてのの方は医師の紹介が必要です)			松崎 勉 西元 謙吾	「手術日」	松崎 勉 西元 謙吾	「手術日」	松崎 勉 西元 謙吾
泌尿器科 *火曜日は、手術日のため外来診療休診			川平 秀一郎	「手術日」	川平 秀一郎	川平 秀一郎 鹿児島大学病院医師	川平 秀一郎
皮膚腫瘍科			松下 茂人 青木 恵美 望月 亮 島田 邦彦	「手術日」	松下 茂人 青木 恵美 亮佐 望月 島田 邦彦 (1,3,5週) 貴田 理香 (2,4週)	「手術日」	松下 茂人 青木 恵美 望月 亮 貴田 理香
眼 科 ※ 外来診療のみ			中尾 久美子 午後 休診	中尾 久美子	午前 休診 中尾 久美子	中尾 久美子	中尾 久美子
歯科口腔外科			中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子
専門 ※ 外来	医師		緩和ケア外来 松崎 勉		腹水外来 櫻井 一宏		がんゲノム医療相談外来 鈴木 紳介 (第1金曜日)
	看護師		フットケア外来 糖尿病看護認定看護師	ストーマケア外来 皮膚・排泄ケア認定看護師	リンパ浮腫外来 リンパ浮腫指導技術者	ストーマケア外来 皮膚・排泄ケア認定看護師	
セカンドオピニオン外来※			循環器疾患、心臓血管疾患、脳血管疾患、がん、悪性新生物、血液疾患				
マルチモビリティ外来※ 『健康診断』			第2循環器内科	第1循環器内科	脳血管内科	腎臓内科	消化器内科
受付 午前8:45～10:00				第一循環器内科	第二循環器内科		脳・血管内科

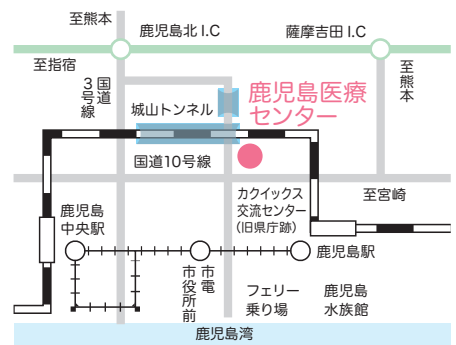
- 受付時間/午前8時45分から11時00分まで ●診療時間/午前8時45分から午後5時15分まで※ただし、急患についてはこの限りではありません。
●休 診 日/土・日曜日・祝日及び年末年始(12月29日～1月3日) ※移植後フォローアップ外来・糖尿病療養指導外来・専門外来・セカンドオピニオン外来・マルチモビリティ外来については完全予約制となっております。事前に電話確認をお願い致します。※不在予定医師につきましてはお電話またはホームページにてご確認ください。

患者さんのご紹介について

- STEP①** 予約センター(専用TEL:0120-680-704)へご連絡ください。
患者さま氏名・生年月日・ご連絡先・希望診療科をお尋ねいたします。
- STEP②** 希望医・希望日時に合わせて紹介先診療科の新患空予約枠をお取り下さい。
- STEP③** 後程、情報提供書のFAX(専用FAX:0120-334-476)をお送り下さい。

※ただし、一部の診療科(血液内科、不整脈治療科、眼科)は除きます。 ※検査などの関係で、予約日の変更依頼を当院から直接患者様へご連絡する場合がありますことと、内容によって院内の他診療科へ予約変更させていただく場合がありますことをご了承ください。 ※緊急性がある場合には、各診療科医師へ直接お電話ください。

予約センター 専用TEL 0120・680・704 専用FAX 0120・334・476
受付時間:月～金9:00～17:00(祝日・12月29日～1月3日を除く)



独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 TEL:099(223)1151・FAX:099(226)9246

ホームページ <https://kagomc.hosp.go.jp>

